

三到松嶋

偶作

寒濤拍岸響黃昏。春色尙遲海上村。他日因緣孤嶋雪。已留鴻爪第三痕。

毫釐遂生千里差。何人敢不憶邦家。寄言南客須回首。前轍年來覆幾車。

三月某日訪本川氏于橫尾山中

途上作

紀念會をことほきてよめる

砲聲動地薩肥間。羽檄東西事太殷。却有吾

本田弘

曹無一事。探花訪友度春山。

諸ともに心をたかく龍田山

宿本川氏此夜有雨

ふみのほりつゝ祝ふ今日かき

曾出田園事遠征。軟紅塵裡寄吾生。十年復

年毎にいや榮えゆく小松原

結烟霞夢。一枕松風夜雨聲。

國の柱の生もいとなむ

旅夜述懷

未賦一篇歸去來。十年萍跡尙天涯。數莖白

客舎夜雨

中内義一

髮入將老。何處青山骨可埋。身後休論名勒

夜はまづか

石。眼前須盡酒如淮。幾多感慨向誰吐。付與

芭蕉をやぶる 雨の音

寒燈照我懷。

歸ると見つる 故郷の

題大石良雄妓樓夜宴圖

夢を破りて

綠酒紅燈夜漏遲。放歌酣醉擁冰肌。英雄最

いとすこし。』

是苦心處。不在江城雪月時。

すき間もる

夜さむの風の 身にまみて
骨に透ふれば ちかくに

はゝのみことぞ

またはしき。』

かべの根に

夜をなき明す きりぐす
か言がましき こゑかれて

幽にありし

あはれさよ。』

ふるさどに

露のたますさ ろけんどや
まをれ乍らに ろりがねの

雲路に咽ぶ

こゑすあり。』

まをめて

大ぞらたかく 見あぐれば
顔撲つあめの ふたつ三つ

暗はあやまし

よしひがし。』

ともし火の

もろくも風に 消えぬるに

千々に乱るゝ あさいどの

思をけさん

よしはなし。』

いざやとて

衾ひきかけ まきたへの

枕にかゝる ひどしづく

茲にも雨は

ろゝぐなり。』

雑報